

水理公式集 [平成 11 年版] 訂正表

頁	位 置	内 容
前付		水理公式集改訂小委員会 委員構成 第 2 編 河川編 望月 常好 → 望月 達也
24	下 8 行目	=が抜け $\alpha \equiv \sqrt{\sin \theta} / n$
142	上 3 行目	あるいは 5.1.3 の → あるいは 5.2 の
159	式 (2-4.14)	$\frac{\tau_{*ci}}{\tau_{*m}} = \begin{cases} \left\{ \frac{\log 19}{\log(19d_i/d_m)} \right\}^2 \frac{d_i}{d_m} & (d_i/d_m \geq 0.4) \\ 0.85 & (d_i/d_m \leq 0.4) \end{cases}$
166	式 (2-4.54)	積分の中 X は小文字 → $p_s(x - \zeta)$
175	式 (2-5.8)	$\frac{\partial i_b}{\partial t} - \frac{1}{a}(i_B - \hat{i}_b) \frac{\partial z}{\partial t} + \frac{q_{Bx}}{a(1-\lambda)} \frac{\partial i_B}{\partial x} = 0$
182	図 2-5.12	カラムずれ。上から砂漣、砂堆まではよいが、以下順に 遷移河床 平坦河床 反砂堆 砂州 交互砂州 複列砂州
188	式 (2-5.25)	右辺第 2 項 $\frac{\partial p}{\rho \theta r} \rightarrow \frac{\partial p}{\rho r \partial \theta}$
203	下から 6 行目	表 2-6.1 に示した値より小さくなるよう → 表 2-6.1 に示した値より大きくなるよう
243	式 (3-1.3.a)	$C = 1.350 \dots$ または $C = 1.357 \dots$ → $C = 1.354 \dots$
269	式 (3-3.12)	右辺第 2 項の $\left(\frac{F_1}{2\mu}\right)^{2/3} \rightarrow \left(\frac{F_1}{\sqrt{2}\mu}\right)^{2/3}$
270	上から 2 行目	$q = \mu\sqrt{2g}(h_2^* - d)^{3/2} \rightarrow q = \mu\sqrt{2g}(H_2^* - d)$
270	上から 2 行目	(q : 単位幅当たり越流量) → (q : 単位幅当たり越流量, $H_2^* : h_2^*$ に対応する水叩き底面を基準とする全水頭)
273	式 (3-3.19)	右辺第 2 項 $gx^2/(2v_0^2 \cos \theta_0) \rightarrow gx^2/(2v_0^2 \cos^2 \theta_0)$
304	図 3-6.5	図の下方 (d) の上の説明 全層流入 → 中間取水
354	上 3 行目	(a) 懸濁粒子の… を同 2 行目、式 (4-1.38) の上へ移動する
359	図 4-2.2	$rT, (1-r)T, T$ の下の横線 → 横線の両端に矢印を追加する
361	式 (4-2.13)	A^4 ではなく → $\sqrt[4]{S/A}$ 4 乗根
”	図 4-2.5	縦軸の単位 (m ² /s) → (m ³ /s) 一番下 Q_5 の式の第 4 項目 $R_3 \cdot A_1 \rightarrow R_5 \cdot A_1$
362	図 4-2.9	縦軸の単位 (m ² /s) → (m ³ /s)
363	上 1 行目	式 (4-2.15) のとおり → 式 (4-2.15, 16) のとおり
365	下 15 行目	られる) (cm ³) → られる) (m ³)
383	式 (4-3.52)	$q_m = C\varepsilon E \frac{\pi}{2} d^2 \sqrt{2\Delta P \rho_l} \rightarrow q_m = C\varepsilon E \frac{\pi}{4} d^2 \sqrt{2\Delta P \rho_l}$
397	式 (4-4.44)	D の前に - をつける $J_V C(x) = -D \frac{dC(x)}{dx} + J_S$
406	下 3 行目	【解 説】 2 行目 (3.6.1)~(3.6.10) → (6-3.52)~(6-3.60)

頁	位 置	内 容
411	上 4 行目	肩付き引用文献 102) → <u>101)</u>
”	表 4-4.10	標題の肩付き引用文献 102) → <u>101)</u>
”	表 4-4.11	標題の肩付き引用文献 102) → <u>101)</u>
412	表 4-4.12	標題の肩付き引用文献 102) → <u>101)</u>
413	表 4-4.13	標題の肩付き引用文献 102) → <u>101)</u>
453	上 12 行目	1.1.2) → <u>1.1.3)</u>
510	上 6 行目	⑥沈降速度 の後に (第 4 編 <u>4.1.1 参照</u>) と付け加える
516	図 5-6.14	図中の記号 u_x, u_t および矢印縦線を削除
”	下 3 行目	(流速 V) → (流速 U)
570	下 1 行目	(大阪府枚方市) → (<u>大阪市旭区</u>)
576	図 6-2.2	図の中央下方 無機態リン → <u>有機態リン</u> (左側はそのまま)
582	表 6-2.5	右端カラム 担当する環境 → <u>相当する環境</u>
591	下 12 行目	3.3 溶解と析出 → <u>溶解 (と析出をトル, 目次(9)頁も)</u>
597	図 6-3.4	右側の図の縦軸 微生物細胞数 → <u>微生物細胞重量</u>
608	式 (6-3.95)	右辺第 1 項 $\frac{\partial C}{\partial z}$ → $\frac{\partial C}{\partial x}$
”	図 6-3.8	中央 2 カ所 F_c → <u>F_e</u>
611	式 (6-3.96)	X をトル $\mu = \mu_{\max} \frac{C}{K_s}$ ~~~
638	式 (6-5.2)	右辺第 1 項と第 2 項の分子の流速 → それぞれ <u>2 乗</u> する
”	式 (6-5.3)	右辺第 1 項と第 2 項の分子の流速 → それぞれ <u>2 乗</u> する
”	式 (6-5.5)	ルートの中の流速 → それぞれ <u>2 乗</u> する
686	右下 9 行目	拡散 576 → <u>614</u>
695	左下 2 行目	dimonometric → <u>dimictic</u>
703	第 1 表の 「大きさ」欄 下から 5 行目 ~1 行目	$ \begin{array}{ccc} 0.000\ 000\ 1 = 10^{-6} & & 0.000\ 001 = 10^{-6} \\ 0.000\ 000\ 000\ 1 = 10^{-9} & & 0.000\ 000\ 001 = 10^{-9} \\ 0.000\ 000\ 000\ 000\ 1 = 10^{-12} & \rightarrow & 0.000\ 000\ 000\ 001 = 10^{-12} \\ 0.000\ 000\ 000\ 000\ 000\ 1 = 10^{-15} & & 0.000\ 000\ 000\ 000\ 001 = 10^{-15} \\ 0.000\ 000\ 000\ 000\ 000\ 000\ 1 = 10^{-18} & & 0.000\ 000\ 000\ 000\ 000\ 001 = 10^{-18} \end{array} $
708 および 709	項目の右上	換算率 $\left(\begin{array}{l} \textcircled{2} \text{に乗ずると} \\ \textcircled{1} \text{が得られる} \end{array} \right) \rightarrow$ 換算率 $\left(\begin{array}{l} \textcircled{1} \text{に乗ずると} \\ \textcircled{2} \text{が得られる} \end{array} \right)$
713	第 22 表	標題の (1) を削除 「第 22 表 水の物性 (1)」 → 「第 22 表 水の物性」
”	”	「飽和蒸気圧」の列 $\cdot \text{MPa} \rightarrow \text{hPa} \cdot \times 10^{-2}$ をすべて削除
”	第 22 表	右 2 欄目「体積弾性係数」のすべてのべき数 $-5 \rightarrow$ <u>5</u>

2007. 12. 10 追加

頁	位 置	内 容
251	式 (3-1.17)	右辺の $\frac{2\sqrt{g}Lh_0^{3/2}}{1+\lambda} \rightarrow \frac{2\sqrt{g}L(h_0-w)^{3/2}}{1+\lambda}$

2008. 10. 31 追加

頁	位 置	内 容
346	式 (4-1.19)	$u' = \frac{S}{AT} \cdot \frac{r^2}{t} \rightarrow u' = \frac{S}{4T} \cdot \frac{r^2}{t'}$

2009. 7. 3 追加

頁	位 置	内 容
16	下から 2 行目	$(20^\circ\text{C} \text{ で } 2.45 \text{ J/m}^3) \rightarrow (20^\circ\text{C} \text{ で } 2.45 \times 10^9 \text{ J/m}^3)$

2010. 2. 1 追加

頁	位 置	内 容
270	式 (3-3.13.e)	$G^2 = F_1^2(1 - K \tan \theta) \rightarrow G^2 = F_1^2/(1 - k \tan \theta)$

2012. 2. 8 追加

頁	位 置	内 容
346	式 (4-1.18) の下 1 行目	ここに, $u_0 = \frac{Sr_0}{4Tt} \dots\dots \rightarrow$ ここに, $u_0 = \frac{Sr_0^2}{4Tt} \dots\dots$

2012. 2. 28 追加

頁	位 置	内 容
251	上から 20 行目 ~27 行目まで	(d) 主流が常流の場合の簡易実験式 ……での推定ができるとしている。 削除 「削除する理由：式 (3-1.18.a) の実験式 からは適当な横越流量を求めることがで きず, 原著論文の記載に誤りがあると判 断されるため, 式 (3-1.18) と合わせて削 除する。」

2015. 6. 26 追加

頁	位 置	内 容
249	式 (3-1.13)	$h/L = a + b(x/L) + c(x/L)^2 \rightarrow -h/L = a + b(x/L) + c(x/L)^2$